

## 教科目名 環境計画 (Environmental Planning)

学科名・学年 : 都市・環境工学科 5 年 (教育プログラム 第 2 学年 ○科目)

単位数など : 選択 1 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 亀野 辰三

| 授業の概要  |   |  |           |
|--|---|--|-----------|
| <p>本科目では、人間活動を規定している政策、法律、社会経済、技術、ライフスタイルなどの幅広い視点から計画を検討し、それらが環境に及ぼす影響を考えることに重点を置きたい。授業の前半では、環境計画に大きな影響を与える「人口問題」と「環境問題」を取り上げる。そして、地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けての現状と今後の課題等、環境とエネルギーの関係について講義する。後半は環境計画の具体例として「公園緑地」と「景観」を取り上げ、景観と環境の関係について学ぶ。また、景観管理のありかたを学ぶ中でこれからの環境保全・環境管理のあるべき姿を考察する。</p> |   |  |           |
| 達成目標と評価方法  |   | 大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1⑤) (g)  |           |
| <p>(1) 環境問題の過去と現在を、その背景、政策、制度等を正確に現状認識ができる。(中間試験)<br/> (2) 前半で学習する内容について、事例を調べてレポートにまとめることができる。(レポート)<br/> (3) 自主的、継続的に学習できる。(レポート)</p>  |   |  |           |
| 回  | 授 業 項 目   | 内 容  | 理解度の自己点検  |
| 1<br>2<br>3<br>4,5<br>6<br>6<br>7  | 1. 環境計画概説<br>2. 環境と人口減少社会<br>2.1 我が国の人口問題<br>2.2 少子高齢化社会<br>3. 環境とエネルギー<br>3.1 地球環境問題<br>3.2 自然再生エネルギー    | ○環境計画と経済のつながりについて理解する。<br>○環境と人口問題、特に少子高齢化が環境計画に与える影響について理解する。<br>○少子化対策における欧州の事例を理解する。<br>○環境とエネルギーの関係について理解する。<br>○地球温暖化防止や低炭素社会実現に向けてのエネルギー問題の現状と今後の課題について理解する。 | 【理解の度合い】  |
| 8  | 後期中間試験  |  |           |
| 9<br>9,10<br>11,12<br>13<br>14   | 後期中間試験の解答と解説<br>5. 景観と環境<br>5.1 公園緑地計画<br>5.2 生活圏における景観<br>5.3 景観法と景観創出・保全<br>5.4 景観の評価                   | ○分からなかった個所を理解する。<br>○公園緑地の現状と課題を学ぶ。<br>○生活圏における景観荒廃問題について理解する。<br>○景観法を理解し、環境創出と保全の方法を具体例で学ぶ。<br>○景観の評価を重回帰分析を用いて求める考え方と手法を理解する。                                   |           |
| 15   | 後期期末試験  |  | 【試験の点数】 点 |
|  | 後期期末試験の解答と解説  |  |           |
| 履修上の注意   | ①本科目の修得には自主的および継続的に学習できる力が必要である。<br>②環境計画専用の大学のノート (B5 版) を用意すること (ルーズリーフは不可)。                            |  |           |
| 教科書  | 三橋規宏、『環境再生と日本経済—市民・企業・自治体の挑戦』, 岩波新書   |  |           |
| 参考図書   | 平田・亀野・宮原・武井・内田, 環境・都市システム系教科書シリーズ 16, 「都市計画」, コロナ社  |  |           |
| 自学上の注意   | 教科書を事前に熟読した上で授業に臨むこと。   |  |           |
| 関連科目   | 都市計画, 応用測量学, 地域計画学  |  |           |
| 総合評価   | 達成目標の (1)~(3) について定期試験とレポートで評価する。<br>総合評価 = 0.7 × 定期試験 + 0.3 × レポート<br>総合評価が 60 点以上を合格とする。原則として再試験は実施しない。 |  |           |